

せいぶ
西部遺跡(05北区南側)
(村上市牛屋字西部1192ほか)

日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、4月1日から5月31日まで発掘調査を実施しました。昨年度からの継続調査で、今年度の調査は村道(平林・福田線)下の約960m²が対象です。

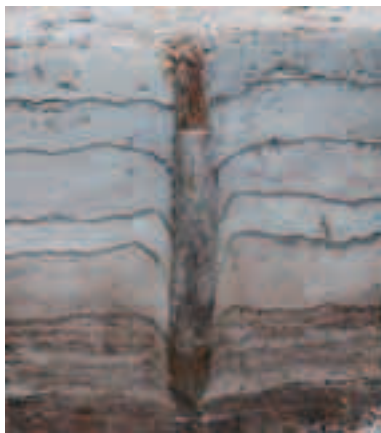
遺跡は荒川河口に近い右岸自然堤防の後背湿地に位置し、8世紀後葉から10世紀前葉の水田跡を検出しました。水田面は2枚(第1・2遺構確認面)確認でき、それぞれの確認面において、基軸になる東西・南北方向の大畦畔や、その区域内を区画する中小の畦畔を検出しました。検出した遺構は大畦畔4条、中畦畔7条、小畦畔73条、溝7条、道路状遺構4か所です。

第1遺構確認面で検出した大畦畔の構築土中から、粗朶木そだぎを検出しました。軟弱なシルト質土壌の地盤改良を行ったのか、大畦畔の築造位置を示すためのものなのか、詳細な性格は不明ですが大畦畔の構築方法の一端が明らかになりました。また、第2遺構面で検出した大畦畔から波板状の凹凸おうとつを検出したことから、大畦畔の一部は道路として利用されていたことが分かりました。なお、昨年度までの調査成果では大畦畔の交差点において土器細片や炭化物が多量に出土しましたが、今年度の調査においてはそのような状況は見られませんでした。

遺物の出土量は少なく、土師器や須恵器がコンテナ2箱、木製品や杭が5箱、石製品その他が1箱でした。

上記の調査成果から、大畦畔による区画は東西約65m、南北約55mという単位で展開することが判明しました。また、今年度検出した東西大畦畔が西部遺跡の水田域の南限である可能性も考えられます。

今後は、今年度の調査成果のまとめに加えて、昨年度までの調査成果を再検討した報告書を刊行するための整理作業を実施します。
(大成エンジニアリング株式会社 村田道博)



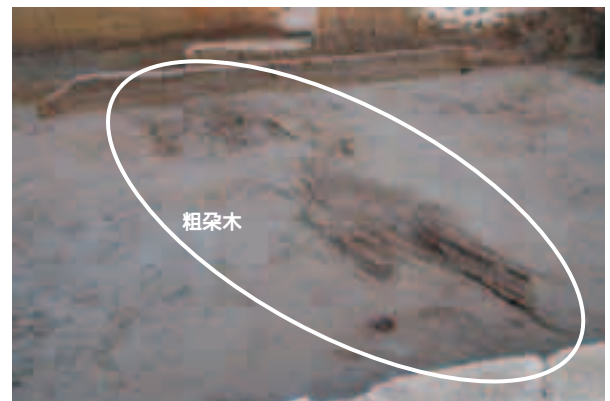
検出した杭と土層断面



調査区近景(西から)



東西大畦畔と道路状遺構(南西から)



粗朶木の検出状況(南東から)